

2. 社会教育系施設

(1) 図書館

ア これまでの取組み

図書、記録その他必要な資料を収集・整理・保存し、市民に情報提供するとともに、市民の学習活動を支援する拠点施設として「湯沢図書館」、「雄勝図書館」を設置しています。

このほか、稲川カルチャーセンター図書コーナーと皆瀬生涯学習センター図書室を設置しているほか、各小中学校に図書室を設置しています。

このうち、湯沢図書館については老朽化が進んでいることなどから、湯沢駅周辺複合施設に機能を統合することとしています。

施設No.	施設名	所在地	地区	所管課
図1	湯沢図書館	字内館町27	湯沢	生涯学習課
図2	雄勝図書館	横堀字白銀町49-1	横堀	

イ 現状と課題

施設No.	施設名称	建築年	法定耐用年数	経過年数	延床面積(m ²)	運営形態	職員数	支出(千円)	収入(千円)	利用人数
図1	湯沢図書館	S57	50	40	1,710	直営管理	正5,会7	56,335	21	40,600
図2	雄勝図書館	H8	50	26	481		会5	7,084	2	10,800

図1 湯沢図書館

鉄筋コンクリート造、地下1階、地上2階建て、延床面積1,710m²。昭和57年に新耐震基準で建設し、建築から40年が経過し老朽化が進んでおり、平成27年度屋上屋根防水シートの改修工事を行っています。土石流・急傾斜警戒区域に含まれています。

開館日・開館時間は、年末年始と月初めの平日、第3日曜日、祝日、振替休日、図書整理期間（毎年9月に10日程度）を除く毎日、平日が9時30分から18時30分まで、土・日曜日が9時から17時までで、管理運営は市直営で行い、人件費を含む管理運営は12,631千円となっています。利用者が使用するコピー代として21千円の収入があります。

施設は、1階は一般開架室、ホール、児童読書室、移動図書館車庫等、2階はホール機能、読書室、集会場、集会室、古文書室、郷土資料室、映写室、録音室、地下は書庫室で構成しています。

蔵書数はA・V・雑誌を含めて約136,600点（うち開架39,000点）、登録者数約4,800人（うち市民約4,400人、令和5年3月末現在）で、年間利用者数は約40,600人、貸出は約68,200冊となっています。また、図書館講座（年2回）、読書フェスタ、長期休み期間読書推進事業、読み聞かせボランティアなどを行っています。

図2 雄勝図書館

雄勝文化会館の4階にあり、延床面積481m²（施設の構造等は雄勝文化会館を参照）。

開館日・開館時間は、年末年始と月曜日を除く毎日、9時～17時30分までで、管理運営は市直営で行い、人件費を含む管理運営費は7,084千円となっています。利用者が使用するコピー代として2千円の収入があります。

施設は、一般閲覧室、児童コーナー、書庫で構成しています。

蔵書数はA V・雑誌を含めて約44,200点（うち開架約36,300点）、登録者数約1,100人（うち市民約1,000人、令和5年3月末現在）で、年間の利用者数は約10,800人、貸出は約24,300冊となっています。また、おはなしキャラバンや、定例のおはなし会を行っています。

【現状と課題のまとめ】

図書館は、これまで資料の貸出を中心に運営してきましたが、近年は滞在型の利用者が増加している一方、インターネットでの検索や予約が可能となるなど在宅での利用環境の整備も進んでいます。

また、これからの時代における図書館の役割として、資料の提供に加え、自主的に地域課題の解決に取り組む市民の学習活動の支援や情報提供が求められています。

施設の面では、湯沢図書館は耐震基準を満たしているものの、施設・設備の老朽化が進んでいるなどの課題があることから、湯沢駅周辺複合施設へ移転することにしており、これまで以上に、市民のニーズに応えた事業展開が必要になっています。

雄勝図書館は、雄勝文化会館に指定管理者制度が導入されることにあわせ、管理運営手法の検討が必要になっています。

ウ 今後の方針とスケジュール

総合管理計画の今後の方向性に基づき、「施設の安全性」、「施設の必要性」、「施設の有効性」、「管理運営の効率性」の視点から検証し、分析・評価を行いました。また、分析・評価を踏まえて、施設の対応方針を定めました。これらの内容は次のとおりです。

【基本的な考え方】

- 市民の学習の場、情報収集の拠点として、また、地域課題の解決に必要な調査研究資料を提供し、地域・市民の学習活動を支援するため、図書館機能の充実強化を図ります。
- 管理運営については、当面、市直営で行いますが、湯沢図書館については、湯沢駅周辺複合施設への移転にあわせ、行政の役割を明確にしたうえで、指定管理者制度への移行を進めます。雄勝図書館については、雄勝文化会館への指定管理者制度の導入にあわせ、民間活力の活用を含め、管理運営手法について検討します。

【個別施設ごとの対応方針】

図1 湯沢図書館

- 昭和57年の建設で耐震基準を満たしているものの、老朽化が進んでいること、駐車場が狭隘なこと、土石流・急傾斜警戒区域に含まれていること、地域・市民のニーズに応える学習機能を持った施設との一体的な配置が望ましいことから、湯沢駅周辺複合施設に機能を移転します。
- 湯沢駅周辺複合施設に移転後の管理運営は、指定管理者制度に移行することから、市民ニーズに応えた事業のあり方について検討します。

図2 雄勝図書館

- 平成8年に建設した雄勝文化会館の複合施設であり、文化会館と同様に保全計画に基づいた計画的な改修を行い、長寿命化を図ります。
- 民間活力を活用した管理運営のあり方を検討します。

【年度別スケジュール】

項目	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 ~ 2030年度 (R10) ~ (R12)
湯沢図書館	市民ニーズに応えた図書館事業のあり方検討		● 移転・複合化	複合施設での事業展開	
雄勝図書館	管理運営手法の検討		----- 検討結果に基づく対応 -----		

エ 概算事業費と効果額

単位：千円

施設 No.	施設名称	今後の方向性		更新費用の試算（40年間：令和2～41年度）						維持管理費	
				現状維持した場合			本計画を実施した場合			単年度の比較	
		建物	長寿命化	大規模改修	建替	合計	長寿命化等大規模改修	建替	合計	現状維持	計画実施
図1	湯沢図書館	複合化	●	577,994	925,132	1,503,125	—	—	—	12,352	—
図2	雄勝図書館	継続		—	—	—	—	—	—	404	404
概算事業費（合計）				577,994	925,132	① 1,503,125	0	0	② 0	③ 12,756	④ 404

更新費用の試算比較 ②－①	単年度の維持管理費の比較 ④－③
△ 1,503,125 千円	△ 12,352 千円

※ 湯沢図書館の「本計画を実施した場合」の更新費用及び維持管理費は、湯沢生涯学習センター（集1）に一括計上しています。

※ 雄勝図書館の更新費用は、雄勝文化会館（文2）に一括計上しています。